王寺町立王寺南義務教育学校　令和６年度全国学力学習状況調査結果分析

◇…比較的できている点
◆…課題のある点

小学校国語

問題作成の趣旨

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視して出題している。

結果概要

◇登場人物の心情を読み取り、選択肢から選ぶことができている。
◆文章の内容を記述をもとに解釈し、要約する力に課題がある。

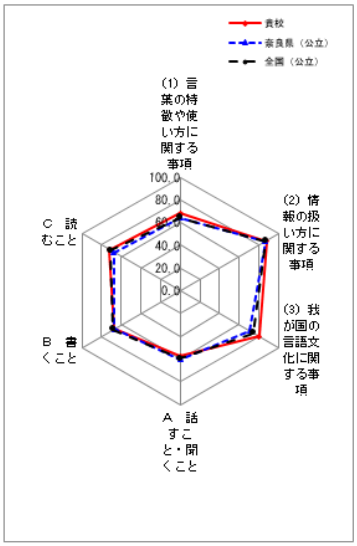
<分類・区分別集計結果>

集計結果

対象児童数	王寺町立王寺南義務教育学校	奈良県（公立）	全国（公立）
	136	9,904	947,364

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 貴校	奈良県（公立）	全国（公立）
全体			14	69	67	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	68.2	64.2	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	87.5	86.6	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	80.1	70.8	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	57.4	60.3	59.8
		B　書くこと	2	67.3	67.0	68.4
		C　読むこと	3	72.1	67.6	70.7
評価の観点		知識・技能	6	73.4	69.0	69.8
		思考・判断・表現	8	65.3	64.7	66.0
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	10	71.4	69.0	69.9
		短答式	2	65.4	60.6	59.7
		記述式	2	59.2	60.5	64.6

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

書くこと

◆高山さんの取材メモを基にして、「たてわり遊び」の良さについての自分の考えを書くことに課題がある。
◆高山さんのメモにある情報を空欄にあてはまるように柔軟に解釈することが難しい。
◆条件付きの作文に苦手意識をもっている。

具体的な設問例（大問２－Ⅱ）

【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、（火）高山さんの取材メモ】を基にして書く。

正答率：49.3%

二　高山さんは、次の【高山さんの文章】の［　　］に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、［　　］に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、１年生から６年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、３色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、ア きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という２年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という５年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月１回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、６年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイ なげるようにしています。

［　　］

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について
６年生がくふうしていること
○遊びたいことを下級生に聞く
○ルールをくふうする
ドッジボール　上級生は遠くからボールをなげる
下級生に聞いたこと
○１年生　お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○３年生　好きな遊びや新しい友達が増えた
○４年生　みんなが楽しそうでうれしかった

〈条件〉
○「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
○【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
○六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

◆

60字

100字

※上の原稿（げんこう）用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

指導改善のポイント

・他教科でも条件付き作文を書く機会をもつ。
（〇〇という言葉を使って〇〇を説明しなさい）など。
・説明文の教材では、キーワード、重要な文を見つけ、条件に合った言葉で、文章を要約する練習を積み重ねる。
・単元の終末に要約などを書いた場合には、教師が評価をつけるだけでなく、全体の場でうまくまとめられている文章を共有し、苦手意識をもっている児童が文章を書きやすいような道筋をつくる。